

米づくり情報（NO. 7）

令和5年7月27日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7月	3	26.1	28.3	30.0	30.8	23.1	26.3	59.0	31.5	23.5	8.0
	4	26.7	28.0	30.9	32.3	23.5	25.0	42.4	23.5	28.3	28.6
	5	27.2	28.2	31.6	33.6	23.9	24.4	39.1	13.0	32.3	25.7
	6	27.6	—	32.1	—	24.2	—	44.3	—	41.4	—
8月	1	27.8	—	32.5	—	24.2	—	34.7	—	34.9	—
	2	27.8	—	32.5	—	24.2	—	38.7	—	33.4	—

【7月3半旬以降の気象概況】

- 平均気温は、平年と比べて1.0～2.2℃ほど高く推移した。
- 日照時間は、平年比74%であり、寡照傾向となった。
- 降水量は、平年比48%であり、少雨傾向となった。
- 7月25日に梅雨明けした。

2 生育状況（7月25日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	莖数 本/㎡	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2 移植 東山代町脇野	本年値	88.5	337	11.2	35.2	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年並み 莖数は、平年より少ない 主稈出葉数は平年より少ない 葉色は平年より淡い
	平年値	86.6	390	12.2	38.5	
	平年比	102	87	-1.0	-3.3	
ヒノヒカリ 6/19 移植 松浦町桃川	本年値	54.5	324	10.3	41.9	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年より低い 莖数は、平年より少ない 主稈出葉数は、平年より少ない 葉色は平年並み
	平年値	59.7	482	11.0	42.3	
	平年比	91	67	-0.7	-0.4	
たんぼの夢 6/17 移植 松浦町桃川	本年値	54.8	315	10.5	42.7	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年並み 莖数は、平年より少ない 主稈出葉数は、平年並み 葉色は、平年より淡い
	平年値	54.7	489	10.7	44.3	
	平年比	100	64	-0.2	-1.6	

（耕種概要）

- ※ 夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。
- ※ 莖数の本年値（ヒノヒカリ、たんぼの夢）については、栽植密度が平年より小さく、移植後の日照不足、断続的な降雨による深水、ジャンボタニシの食害等により、平年比がかなり小さい。

(参考：平坦部 佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報第4号より抜粋)
 本年産水稻の生育状況 (7月24日)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月19日	夢しずく	本年	59.8	431	10.9	40.0	[気象] 7月18日～23日まで ◆平均気温…平年より1.1℃高い ◆日照時間…短い(平年比83%) ◆降水量…少ない(平年比46%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」で平年並み、その他の品種では低い。 ◆茎数 「夢しずく」で多く、「ヒノヒカリ」「さがびより」では少ない。「ヒヨクモチ」では平年並み。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒヨクモチ」では進んでおり、他の品種は平年並み。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」「ヒヨクモチ」で高い、「ヒノヒカリ」でやや高い、「さがびより」で平年並み。
		平年	60.7	411	10.5	36.6	
		平年比(差)	99	105	+0.4	+3.4	
	ヒノヒカリ	本年	47.7	497	10.0	40.3	
		平年	55.8	561	10.7	38.5	
		平年比(差)	85	89	-0.7	+1.8	
6月20日	さがびより	本年	47.3	416	10.4	36.8	
		平年	51.3	515	10.5	37.0	
		平年比(差)	92	81	-0.1	-0.2	
	ヒヨクモチ	本年	45.5	813	11.5	40.8	
		平年	49.3	819	11.2	37.8	
		平年比(差)	92	99	+0.3	+3.0	

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻 (5月上旬移植)

- 早いところではすでに出穂期を迎えている。
- 最も用水量が必要な時期であるため、出穂10日後までは間断灌水の湛水期間を長めにとる。出穂開花期頃の干ばつは、不稔籾の増加の原因となるため、穂ばらみ期に次いで用水確保が重要となる。
- 用水確保が難しい地域は、出穂後1～3日、出穂後10日～15日、できれば糊熟期(粒を押しつぶすと粘り気の強い糊状となる時期)に重点的に走水を行い、被害の軽減に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- 穂ばらみ期を迎えている。
- 穂孕期から穂揃期にかけては、イネの用水要求度が最も高い時期である。水が切れることがないように圃場の水管理を徹底する。
- 用水確保が難しい地域は、最も水を多く必要とする出穂7日前～14日前に、最低でも散水、可能であれば走水を行い、できるだけ黒乾状態を保つ。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 有効茎（茎数が1株20本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- 梅雨明けし、高温と乾燥が予想される。深い亀裂が入り、土壌が白乾するほどの強い中干しは、断根につながるため、中干しの強度は、軽く足跡がつく程度の黒乾燥状態を保つ程度とする。
- 用水の確保が難しい地域は、自然落水とし、水尻は完全に落とさないようにする。
- 早いところではまもなく幼穂形成始期を迎え、用水が必要となるため、遅くとも移植後40日頃までには中干しを終えるようにする。
- 幼穂形成始期を迎えた圃場では、次の穂肥診断基準をもとに穂肥を施用する。



白く乾燥し、深い亀裂が入った圃場

「ヒノヒカリ」穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉色		施用時期		穂肥施用量(kg/10a)	
	群落	SPAD-502	出穂前日数	幼穂長	窒素成分量	BB602
80cm以下	3.0以下	34以下	24~20日前	1~2mm	3.0	18 kg
	3.0~3.4	35~38	20~18日前	3~5mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	39~40	18~14日前	5~15mm	2.0	12 kg
	3.8以上	41以上	16~13日前	15~30mm	1.0以下	6 kg
80cm以上	3.0~3.4	35~38	20~18日前	3~5mm	2.0	12 kg
	3.5~3.8	39~40	18~16日前	5~15mm	1.5	10 kg
	3.8以上	41以上	16~13日前	15~30mm	1.0以下	6 kg以下

「たんぼの夢」穂肥施用基準

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉色		施用時期		穂肥施用量(kg/10a)	
	群落	SPAD-502	出穂前日数	幼穂長	窒素成分量	BB602
65cm以下	3.8以下	39以下	22~20日前	2~3mm	3.0	18 kg
	3.8~4.2	40~41	18~15日前	5~15mm	1.5	10 kg
	4.2以上	42以上	施用しない			
65cm以上	3.8以上	39以下	22~20日前	2~3mm	1.5	10 kg
	3.8~4.2	40~41	18~15日前	5~15mm	1.0以下	6 kg 以下
	4.2以上	42以上	施用しない			

※ 草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成期（幼穂長1mm）を基点に、前後1日当たり1cm増減する。

※ 止葉が抽出し終わった後は施用しない。

※ **BB602の施用量は栽培ごよみに準じている。**

※ 穂肥は湛水状態で施用し、最低4日間は止水し落水しない

4) 共通

○主な病害虫の防除適期

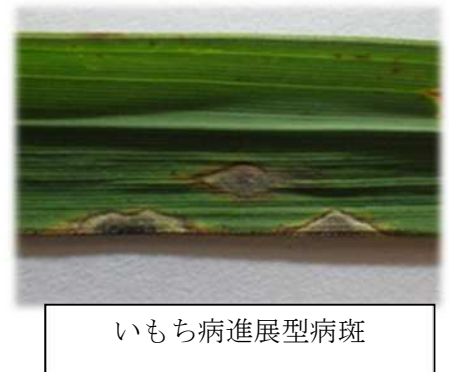
- ・ 圃場での病害虫の発生状況を確認し、防除時期を逸しないよう注意する。
- ・ 農薬の使用にあたっては、使用する農薬の登録内容を遵守する（特に収穫前日数に注意）。

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	防除適期								
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20	
紋枯病	並発生の場合	←→								
	多発生の場合	←→			←→					
穂いもち	並発生の場合				←→					
	多発生の場合				←→		←→			
カメムシ類	並発生の場合						←→			
	多発生の場合						←→		←→	

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

○いもち病

- ・ 6月下旬から曇天が続いたことにより、草丈が平年よりも高く推移しており、葉がうっぺいした圃場では、葉いもち病の発生が確認されている。
- ・ 7月13日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では6月8日、11日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。
- ・ 田周りをを行い進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト剤等（収穫前45日、出穂10日前まで）で速やかに防除を行う。













いもち病進展型病斑

○ウンカ類

- ・ 6/30～7/13にかけてトビイロウンカの飛来が確認されている（表1）。この飛来波の今後の発生予測は図1のとおりである。
- ・ 今後の飛来状況および気象条件により、発生予測図は随時更新される。
- ・ 防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する（ウンカは稲の株元に定着します）。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

		トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
成虫				
幼虫	若齢			
	中齢～老齢			

【情報田ウンカ類調査結果（25 株払落し調査）】

（調査日：7/25）

品種	地域	移植日	トビイロウンカ		セジロウンカ		ヒメトビウンカ	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
ヒノヒカリ	松浦	6/19	0	0	2	5	0	1
たんぼの夢	松浦	6/17	0	0	1	6	1	2

表1 イネウンカ類のトラップでの捕獲状況（2023年7月18日）

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ				
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県		
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
	30日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
7月	1日	0	12	0	0	0	0	70	1	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0
	3日	0	15	0	0	0	0	75	0	0	0
	4日	0	4	0	0	0	0	13	19	0	0
	5日	0	19	0	0	0	1	23	31	0	0
	6日	0	3	0	0	0	0	43	0	2	0
	7日	0	4	0	0	0	2	6	0	4	0
	8日	0	14	0	0	0	0	14	1	0	0
	9日	0	3	0	0	0	1	16	6	1	0
	10日	0	0	1	1	0	0	15		0	0
	11日		2		0	0		10		0	0
	12日		2					3			
	13日		4					3			

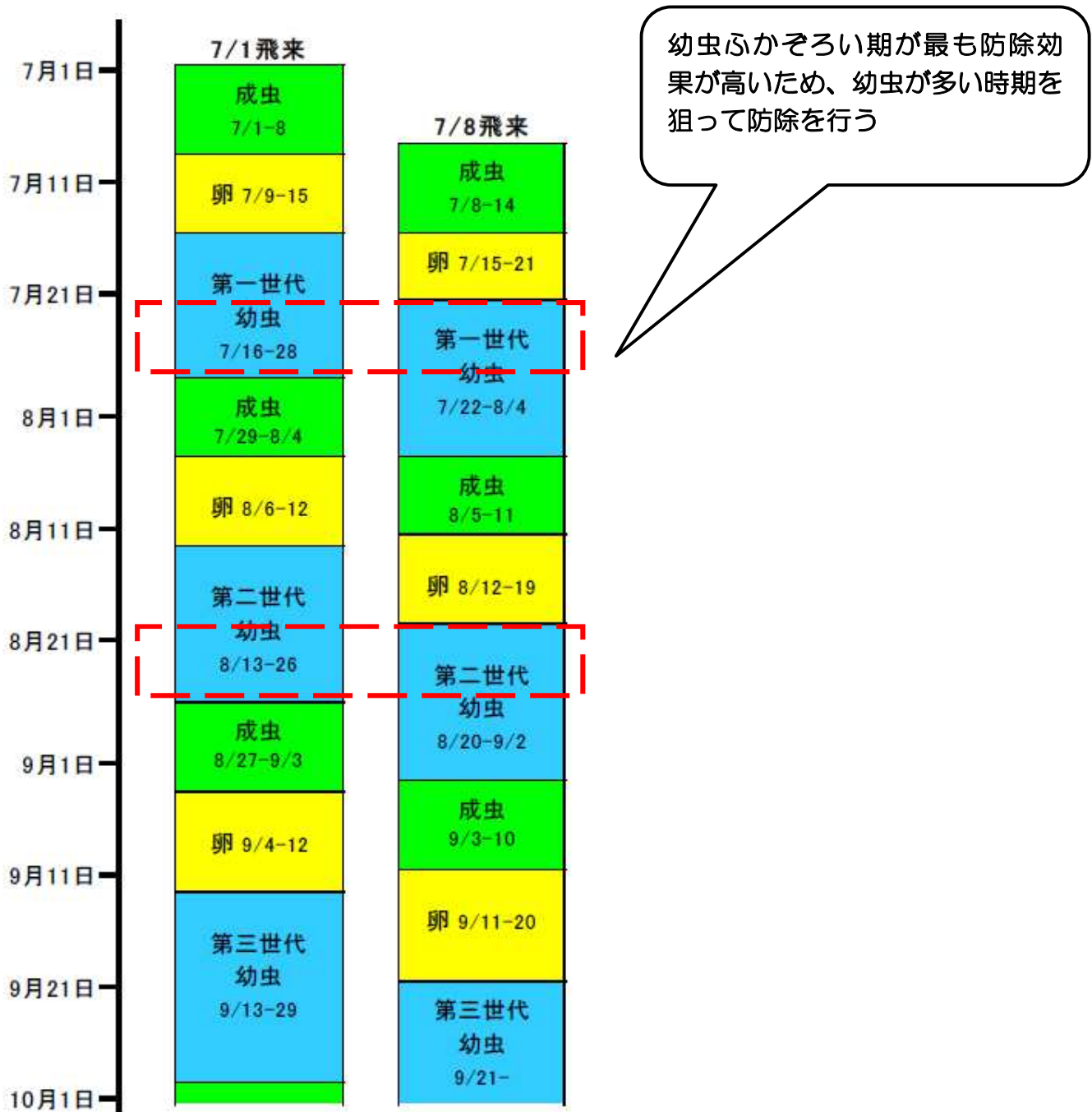


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第1版、2023年7月18日作成)

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月18日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和5年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業振興センター

